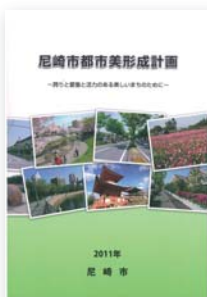


尼崎市では、誇りと愛着と活力のあるまちの実現のために、景観法に基づく景観計画として「尼崎市都市美形成計画」を策定し、都市美の形成に取り組んでいます。

都市美とは、都市にある自然と人工物と人間の3つの要素の関わりから生み出される美しさです。歴史と文化がとけあった視覚的な美しさ、人々の心のふれあいから醸し出される心の充実感です。

都市美形成計画では、景観類型別や都市美形成上重要な地域ごとの都市美誘導基準を定めて、景観特性に応じた都市美誘導を図っています。



本冊子は、尼崎のまちがどのようなものや工夫からできているのかを知ってもらいたいと思い、発行しました。

お気に入りのまちのながめを見つけることで、日々の生活の中に都市美をより身近に感じていただければ嬉しいです。

あなたもわたしも、できることからまちの「ちょっといいな」を始めてみましょう。

企画・制作： 尼崎市都市美アドバイザーチーム
まちのながめ担当

問合せ先： 尼崎市都市整備局
都市計画部開発指導課
〒660-8501
尼崎市東七松町一丁目23番1号
電話 (06) 6489-6606

発行年月：平成28年12月

表紙の場所：ピッコロ通り



まちのながめ

「ちょっといいな」があふれるまちへ

まちをながめると
何ができてきますか？

建物 街路樹 ガーデニング 水路 ランドマーク...
まちの景観は様々なもので作りだされています

観光地のようにきれいに整備されたまちだけでなく
普段、私たちが生活している尼崎のながめも 景観 であり
私たち皆がつくりだしているものです

ちょっといいな と思えるまちは、実は
ちょっとした工夫で作りだされていることも

見慣れている日常のまちも 見方を変えれば
ちがったものに見えてくるかもしれません

尼崎のまちを ながめてみませんか？
身近にあるお気に入りの まちのながめ が
きっとみつかります



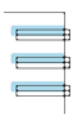


家並みがつくるながめ

住宅地を歩くと、ゆったりとした時間が流れているように感じたことはありませんか。

それは、高さや色合いの揃った家並みと庭の樹木や街路樹、生垣、水路などが相まって作りだすものです。尼崎のまちをながめるとその地域の特徴を活かしたうおいのあるまちが見えてきます。

1. 水路沿いに柳の木が並び、高さの揃った家々、庭木や街路灯と相まってまちの雰囲気を作りだしている(武庫之荘)
2. 軒の高さと色合いを揃え、調和のとれた家々とまちにうおいを与える前庭の緑(上坂部)
3. 旧家がつくる情緒あるながめに会うことも(七松町)
4. 水路と連続する豊かな生垣が織りなすながめ(東園田町)



マンションがつくるながめ

尼崎のまちをながめると目に留まる存在感のあるマンション。

建物の色彩や素材、デザインはもちろん、敷地※のつくり方や緑化、そしてマンションだからこそ生みだせるオープンスペースなど、工夫されたマンションが尼崎のまちを彩ります。

※敷地の境界

1. 圧迫感を軽減した外観が印象的。まちにうるおいを与えるゆとりのある緑化スペースがそれを際立たせている(武庫元町)
2. 色合いと高さの揃ったマンションが作り出す統一感のある空間(蓬川町)
3. 歩行者を楽しませる豊かな植栽計画とデザインで彩られた敷地(三反田町)
4. 直線的でスマートな建築デザインとゆとりあるオープンスペースがまちのランドマークと憩いの空間を作り出す(上坂部)



駅前のながめ

たくさんの人々が行き交い、集まる駅の周辺。
ランドマークとなる建物が駅のシンボルとなり、ゆとりとゆるおいを
感じられる広場が憩いの空間をつくりだします。また、昼と夜で違った顔
を見せ、行き交う人々を楽しませてくれます。

1. 駅前の顔となる商業ビル群とそれらをつなぐ回遊性のあるデッキ (JR尼崎駅前)
2. 彩り鮮やかな花壇が駅に降り立つ人の目を楽しませてくれる広場、シンボルとなるタワーマンションが駅前の顔をつくりだす (阪神尼崎駅前)
3. 建物を後退させてつくられた緑道 (JR尼崎駅前)
4. 足元から木を照らすことで印象的な夜景を演出 (阪神尼崎駅前)
5. 高層ビルが建ち並ぶ中に広がる、通行人の視線に配慮したくつろぎ空間 (JR尼崎駅前)



工場がつくるながめ

尼崎のまちの発展を支える工場が内陸部や南部に建ち並んでいます。
 そんなまちをながめてみると、幹線道路沿いを彩る沿道緑化、運河沿いに
 並ぶ工場群、工場ならではの洗練された建築デザインが。
 尼崎を象徴するながめです。

1. 花木を組み合わせ道路沿いの植栽が施設の圧迫感を軽減し、季節感やうるおいを感じられるながめをつくりだしている(東向島町)
2. 交通量の多い工場地帯の入り口に解放感のある緑地とシンプルな外観デザインの建物が配置され、明るい印象を与えている(西向島町)
3. 工場地帯を流れる運河は、尼崎の発展の過去・現在・未来を感じさせる、工都を象徴するながめをつくる(北堀運河)
4. 工場らしいシャープな外観デザインの建物と統一感のある防音壁。敷地内の植栽と相まって魅力的な空間を創出(杭瀬北新町)

「まちかど」と「まちなみ」

まちなみをすこし見つめると、まちの顔となる「まちかど」とそれらをゆるやかにつなぐ「まちなみ」が見えてきます。ちょっと意識してまちなみをながめると、日常の中にある「ちょっといいな」に出会えます。



おらかな屋根が特徴的な家と自然素材をふんだんに使った外構がまちかどを演出



まちかどを印象づける大木

まちかど

まちかどにシンボルがあれば、そのまちのアクセントになり、まちかどが彩られれば、その通りを歩きたくなる。まちかどがまちの魅力を引き立てます。



まちかどに設置されたオブジェがアクセントに



高さの色合いの揃った戸建住宅



連続する生垣がまちのうおいを創出



デザイン性のある車止めが道行く人の足取りを軽やかにする

まちなみ

まちなみは、家、道、街路樹...様々なものが'つながる'ことで形成されます。緑や建物の色調がつながれば、まちがより魅力的になります。



大きく育った街路樹が幹線道路に四季折々の表情を見せてくれる



まちの工夫

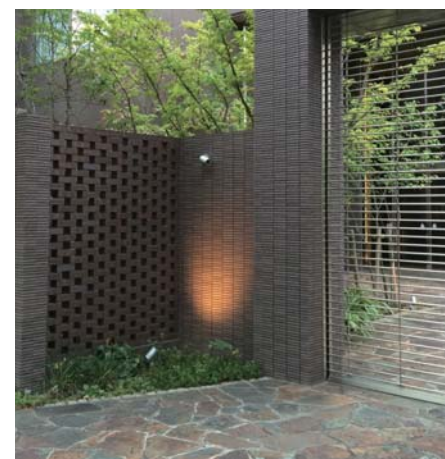
まちかど、まちなみを見つめると個々の門、街灯といった工作物や建物がそれぞれ周辺と調和しながら、アクセントとなるようなデザインや植栽により、豊かな空間を演出していることがわかります。



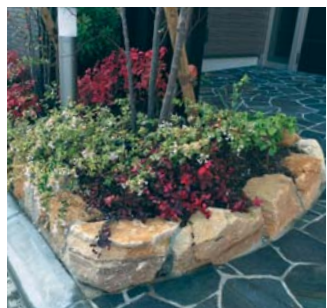
軽やかさや重厚感など、舗装の素材や色遣いで空間を演出します。



敷地の境界となる敷際を植栽や自然素材にすることで、敷地の内外をゆるやかにつなぎ、やわらかな印象を与えます。



木や石といった自然素材や植栽との組合せにより、親しみやすい印象を与えます。





やわらかな曲線やリズムカルな外観、色彩表現など、アクセントとなるデザインがまちに彩りを与えます。



駐輪場や室外機を植栽やパネルで覆ったり、ごみ置場もデザインとして建物に取り込むことで、まちなみに溶け込みます。

ながめをつくるひと



花のまち委員会

【サン'カリカエ】

代表の清水さん(中央)とメンバーの遠藤さん夫妻。「長く活動続けるのに大事なことは、頑張りすぎないこと」

季節ごとに市内の公園や道などに花を植えてまちなみを彩り、道行く人を楽しませてくれている花のまち委員会※。そのうちの1グループ、北雁替公園の「サン'カリカエ」さんは平成11年に結成し、現在は4人で活動されています。

種まきからの苗づくり、植え付け、水やり、花がら摘み...長い期間をかけて花壇の維持管理をします。「種から芽が出るかいつも心配です。相手は生き物。力仕事や暑い日寒い日の活動は、好きじゃないとできませんね」と、代表の清水さんは話してくれました。

「楽しくてもっともっとと思うけど、年齢を重ねて体の負担も少しずつ感じます。でも、私の夢は尼崎にオアシスのような憩いの場所をつくること。たくさんの方に活動に参加してもらえると嬉しいです。」

私たちを楽しませてくれるまちながめは、たくさんの方の手で彩られています。花の咲く季節が楽しみです。

※平成8年に発足した街なみ街かど花づくり運動を推進するボランティア団体。



花壇のデザインはメンバーで考えます



ガーデニングコンテストで受賞したときの写真。「きれいね」と声をかけてもらえると嬉しい。公園はたくさんの人に見てもらえて、私の自慢の花壇なの」とメンバーの遠藤さん



地域のコミュニケーションの場に

まちなみ美化活動とまちどおり保存

【西竹谷福祉協会】

蓬川沿いにある蓬川緑地と側道では、西竹谷福祉協会のみなさんが月1回美化活動をされています。亀井会長は「緑地ができる以前の昭和30年頃から継続して行っています。過去には市から表彰をいただいたこともあり励みになっています」と話してくれました。

朝8時30分頃から徐々に集まり、3歳のお子さんから年配の方まで、20人前後が参加されています。

「いいでしょ、ここ!尼崎にもこんなところがあるんですよ!」と誇らしげに話してくれる方や、「掃除じゃなくてお喋りに来てるんだよ」と、まるでお孫さんと話すように近所の子どもと仲良く掃除されている方も。

1筋東には昭和初期に建てられた3軒の和風住宅が並び、向かいの宮内公園は既存樹木や元民家を残す珍しい公園で、情緒あるまちどおりを維持しています。

美化活動やまちどおり保存を通して、地域のつながりとまちへの愛着が深まっています。



会長 亀井 仙欣さん



情緒あるまちどおり景観



通りを手分けて清掃

まちの記憶

古くは交通の要衝として、江戸時代は城下町として、明治以降は工業都市として発展してきた「まちの記憶」を今に伝える建物や樹木、橋…。維持、転用しながら活用し続けることで次の世代に伝えます。



市内最古の洋風建築であるユニチカ記念館



かつて日本一と言われた村役場を転用した大庄公民館



戦前期に建てられた校舎を転用した開明庁舎



寺や町割りがある昔の城下をしのばせる寺町



大阪近郊の豊かな農村の庄屋の姿を今に伝える農家建築



校門跡が学校の思い出を後世に伝えるさくら公園



まちかどにうるおいを与えるマンション敷地内の保護樹木



武庫之荘駅前開発を今に伝える一の橋～十七の橋



昭和のはじめから南部の東西交通を支える武庫大橋



かつてあったガスタンクを彷彿とさせる、であい橋



歴史を感じさせる田能春日神社の保護樹木と周辺農地